

知事会見 詳報

▼冒頭発言

【能登半島地震対応】

災害対応を円滑に行えるようにするためには、全国知事

会などの支援の枠組みの中で被災地の状況に応じて支援することが大切。本県としては要請があり次第、迅速に対応するよう準備している。さらに屋根専門業者による家屋の応急復旧の支援ができたこと

を石川県などに申し出ており、こうした要請にも迅速に対応する。ブルーシートなど直ちに支援可能な備蓄物資を確認するとともに、物資輸送に関する協定を締結している県トラック協会に協力依頼を行った。被災者が県営住宅などへの入居を希望した場合に提供できるように空き室46戸を準備

した。輪島市にある日本航空学園の能登空港キャンパスでも甚大な被害を受けたと聞いている。学園本部が所在する本県としても可能な限り支援を行っていく。

【年頭に当たって】

昨年は1月の知事選を経て、県総合計画の策定、豊か

れた年でもあった。今年はこの施策を着実に実行し、成果として県民に還元していくことを強烈に意識していきたい。今年の干支（えと）である「甲辰（きのえたつ）」の意味するところは文献によっても表現はさまざまだが、総じて新しいことに挑戦して成

能登地震要請に迅速対応

さ共創、人口減少危機突破対策、富士山問題、自然首都圏構想をはじめ、全ての県庁内

功することが示唆されている。山梨県にとっては甲斐の国が昇竜として飛躍する年であると受け止めるべきであり、われわれの総力を結集してそのようにしなければならぬ。1年であると考えてい

を進め、国の補助事業に採択されて準備が整った。昨年は県内2市で実証実験が行われたが、先進的な実証実験が本県で盛んに実施されるのは大変喜ばしいこと。県としても市町村の動きをサポートしつつ、他方で先端領域へ貢献していく本県のテストベッドとしての価値や魅力を積極的に

発信し続けたい。▼質疑応答【県政】―最優先課題は。長崎幸太郎知事 県総合計画に記載した。どれも重点的に行うべきことで、同時並行的に全てを進めていきたい。【人口減少対策】―将来推計人口の受け止めは。知事 想定内で現行の県人口ビジョンにも盛り込まれている。少子化はまだ見ぬ将来世代の警告だと思っている。県民一人一人の豊かさを実感できる山梨づくりは一刻の猶予もない。中途半端なことできない。先送りもできない。これからの世代の声なき声をしっかりと踏まえてやるべきことをやり切るべく、まい進していきたいと決意を新たにす

る次第だ。